

はこいしん

『箱維新』で、病害虫防除は新時代へ。

高密度は種にも使えます！

水稻育苗箱用殺虫殺菌剤

# 箱維新<sup>®</sup>

はこいしん

粒剤

ピラキサルト<sup>TM</sup>  
含有!!

ウンカ類・コブノメイガ・いもち病・紋枯病を長期間防除!!



トビウナカ



ヒメトビウナカ



セジロウナカ



コブノメイガ



いもち病



紋枯病

Pyralis<sup>active</sup> powered by RYNAXYPYR<sup>®</sup>  
ACTIVE INGREDIENT

箱維新<sup>®</sup>は住友化学(株)の登録商標 農林水産省登録 第24130号  
TM コルテバ・アグリサイエンスならびにその関連会社商標  
RYNAXYPYR<sup>®</sup>はFMC Corporationまたはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標



水稻育苗箱用殺虫殺菌剤

はこいしん

# 箱維新<sup>®</sup>

粒剤

特長一

1剤で主要病害虫防除が可能。

特長二

ウンカ類やコブノメイガに対する優れた効果。

特長三

いもち病・紋枯病など主要病害に優れた効果。

農林水産省登録 第24130号

適用病害虫および使用方法 有効成分:クロラントラニプロール…0.75% トリフルメゾピリム…0.75% イソチアニル…2.0% フラメトビル…4.0%

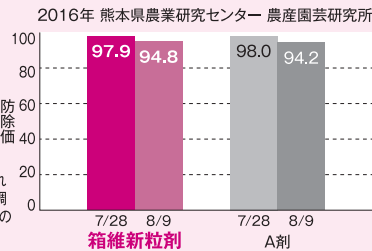
作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	トリフルメゾピリムを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	フラメトビルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病 内穎褐変病 白葉枯病 イネミズゾウムシ イネドロオウムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ イネツトムシ フタオビコヤガ コブノメイガ	育苗箱 (30×60×3cm.) 使用土壌約5ℓ 1箱当り50g  高密度には種する場合は 1kg/10a 育苗箱 (30×60×3cm.) 使用土壌約5ℓ 1箱当り50~100g	移植7日前 ~移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する	1回	1回	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)

2021年11月現在の登録内容

## 試験成績

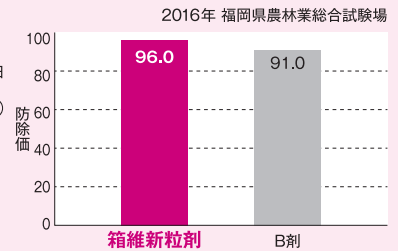
### いもち病

品 種:あきげしき  
は 種 日:5月2日 移植日:6月2日  
処 理 日:6月2日(移植当日)  
発生状況:多発生(接種)  
調 査 日:7月28日(移植56日後)  
8月9日(移植68日後)  
調査方法:  
7月28日は各処理区の接種源より5株以上離れた中央2条の30株について、全葉の病斑数を調査し、防除値を算出した。8月9日には上位3葉の病斑数を調査し、防除値を算出した。



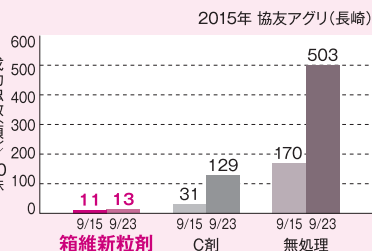
### 紋枯病

品 種:ヒノヒカリ  
は 種 日:5月30日 移植日:6月20日  
処 理 日:箱維新/6月20日(移植当日)  
B剤/5月30日(は種時覆土前)  
発生状況:中発生(接種)  
調 査 日:10月3日(移植105日後)  
調査方法:  
10月3日に各区100株の発病株率と発病株の病斑高率を調査し、防除値を算出した。



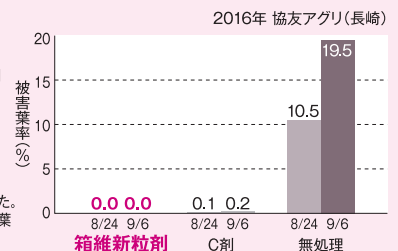
### トイロウンカ

品 種:ヒノヒカリ  
は 種 日:5月22日 移植日:6月17日  
処 理 日:6月17日(移植当日)  
発生状況:中発生  
調 査 日:9月15日(移植90日後)  
9月23日(移植98日後)  
調査方法:  
1区3ヶ所各30株について、粘着板への2回払い落としにより、生息虫数を成虫・幼虫別に調査した。



### コブノメイガ

品 種:ヒノヒカリ  
は 種 日:5月24日 移植日:6月18日  
処 理 日:6月18日(移植当日)  
発生状況:多発生  
調 査 日:8月24日(移植67日後)  
9月6日(移植80日後)  
調査方法:  
8月24日は各区2列連続50株3ヶ所の上位3葉の被害葉数を調査し、被害率を算出した。9月6日は各区2列連続50株3ヶ所の上位1葉の被害葉数を調査し、被害率を算出した。



## 注意事項

### 〈効果・薬害等の注意〉

- 育苗箱の上から均一に散布する場合、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植してください。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗等には薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
- 育苗箱(30×60×3cm. 使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾粒として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整してください。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはいないに行い、移植後田面が露出しないように注意してください。
- いぐさの栽培予定水田では使用しないでください。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田ではいぐさを栽培しないでください。
- きく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布してください。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさけてください。

- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

### 〈安全使用上の注意〉

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意してください。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届くところには置かないでください。●空袋は放置せず適切に処理してください。

2021年11月作成 全新企画社 P1202111002